

連合静岡

「2021 年個別貸金実態調査」報告

連合静岡

# 目 次

調査実施の概要.....	1
Ⅰ. 連合静岡全体の概況 .....	5
1. 2021年調査における賃金実態 .....	5
2. 年齢別賃金階級別にみた人員分布.....	9
3. 回帰分析とは .....	15
Ⅱ. 年齢ポイント別平均賃金.....	17
1. 性別 .....	17
2. 業種別 .....	18
3. 規模別 .....	19
4. 地域別 .....	20
5. 2020年調査との比較.....	21
Ⅲ. 「賃金構造基本統計調査・静岡」の結果.....	25
1. 賃金構造基本統計調査にみる静岡の概況.....	25
2. 性別 .....	28
3. 業種別・製造業の場合 .....	29
参考 非正規社員組合員の賃金.....	30

## 調査実施の概要

### 1. 連合静岡「個別賃金実態調査」とは

本調査の目的は、①主要な労働条件である賃金水準について「個別賃金実態調査」を通じて地域に波及できる精度の高い数値を示すことにより「組合員 20 万人の賃金地図を作ろう」運動を社会運動化すること、②「組合員 20 万人の賃金地図を作ろう」が社会運動として認識される事で労働組合の存在意義を高め、1,000 万連合に向けた組織拡大の一翼を担い、働くことを軸とする安心社会の創造に繋げることを目的として、取り組んでいる調査である。

なお、本調査は、「構成組織を通じ毎年9月末日を期限として」実施され、当年12月提出分で集計および分析を行っている。

### 2. 調査項目およびデータの整理

調査項目は、「性別（男性、女性）」、「学歴（中卒、訓練校卒、高卒、専門学校卒、短大・高専卒、大卒、大学院修了）」、「年齢」、「勤続年数」、「基本賃金」、「所定内賃金」の6項目である。ただし、集計にあたっては、『2022 地域ミニマム運動：2021 年個別賃金実態調査』との整合性を鑑み、下記の項目についてデータの整理と補完を行っている。

○学歴構成は、「中卒」、「高卒（訓練校卒含む）」、「短大・高専卒（専門学校卒含む）」、「大卒・大学院修了」、「不明」の5区分に再整理した。

○勤続年数の記入がないケースについては、『地域ミニマム運動・個別賃金実態調査』から算出した年齢ポイント別平均勤続年数を代入した。

○賃金額の集計には、「所定内賃金」を活用しているが、所定内賃金のないケースについては「基本賃金」を代用した。

○参加組合の属性データから、業種を3区分（製造業、交通・運輸業、商業・サービス業）、企業規模を4区分（99人以下、100～299人、300～999人、1,000人以上）、地域を4区分（東部、中部、西部、その他）にそれぞれ分類し、集計を行うこととした。

なお、業種については、もともと10業種に区分されており、製造業は「金属」、「化学・繊維」、「食品」、交通・運輸業は「交通・運輸業」（a：生コン製造販売輸送、b：ハイヤー・タクシー、c：トラック輸送、d：鉄道・バス、e：その他）、商業・サービス業は「資源・エネルギー」、「サービス・一般（公務）」、「情報・出版」、「商業・流通」、「保険・金融」、「建設・資材・林産」からそれぞれ構成されている。

○本報告で用いている平均値とは、とくにことわりのない限り「単純平均」によって算出した数値である。

### 3. 集計ならびに分析作業の委嘱

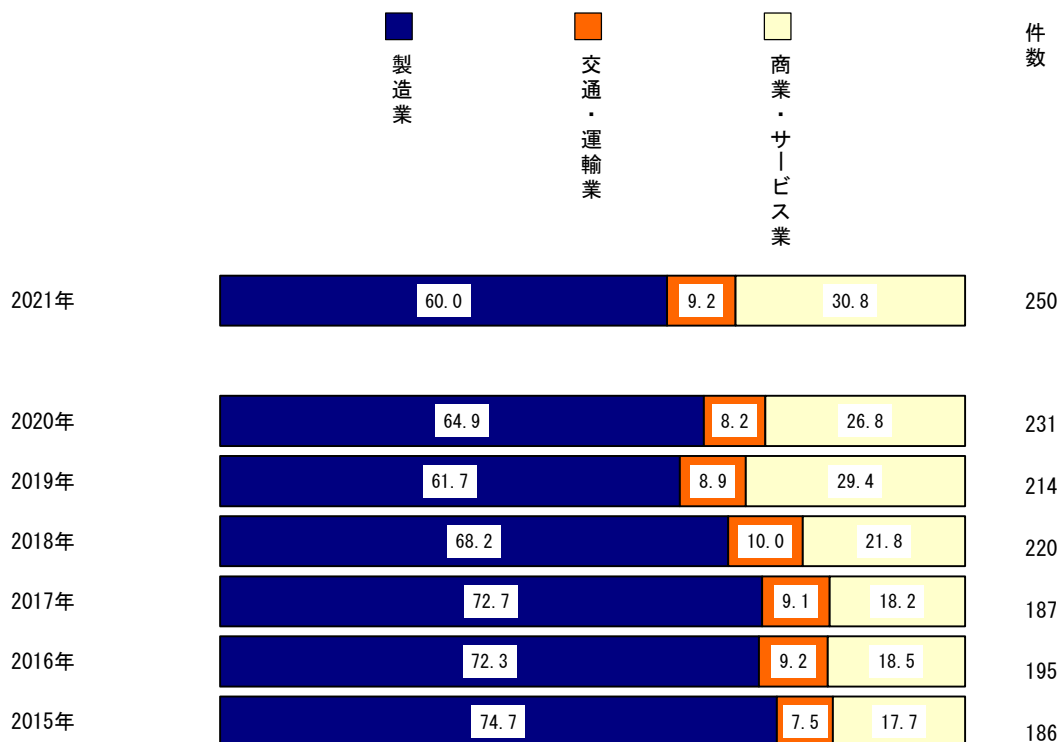
本報告は、連合静岡組織拡大・対策局との議論に基づいて、労働調査協議会（略称：労調協）が作成している。

#### 4. 2021年度の取り組み状況

集計対象となった組合数は250組合、組合員数は104,416人である。2020年調査（231組合、93,171人）と比べると、組合数が19組合、組合員数は11,245人増加している。

参加組合の業種構成は、「製造業」が60.0%で最も多く、以下「商業・サービス業」が30.8%、「交通・運輸業」が9.2%を占めている（第1図）。

第1図 業種



なお、現時点で最新の調査結果は公表されていないが、『令和2年静岡県労働組合基礎調査結果』（令和2年6月30日現在）によれば、静岡県内の労働組合数ならびに労働組合員数は1,201組合、291,239人（男性：197,253人、女性：93,986人）であり、うち東部が393組合、76,392人、中部が447組合、90,303人、西部が361組合、124,544人となっている（推定雇用者数は1,706千人）。また、上記1,201組合のうち、連合加盟組合数は671組合、221,408人である。

なお、上記連合加盟組合に占める今回調査の集計対象は、組合数では37.3%にとどまるものの、組合員数では47.2%と、ようやく連合加盟組合員の半数近くを網羅するまでに広まっている。

令和元年における組織状況は、労働組合数が1,223組合、組合員数は284,755人で、この間組合数は減少傾向にあるが、組合員数では令和元年に引き続き増加している。

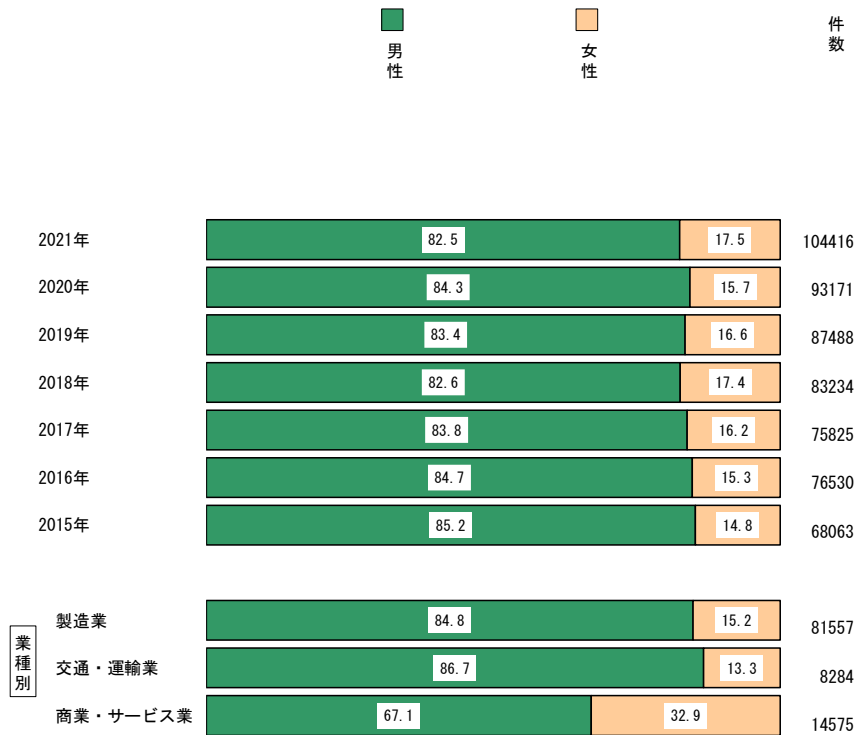
上記に加えて、パートタイム労働者の労働組合員数は21,890人（うち、女性が17,340人）であり、全労働組合員数（291,239人）の7.5%を占めている（令和元年パートタイム労働組合員数：17,229人）。

## 5. 集計対象者の構成

性別構成は、「男性」が 82.5% (86,120 人)、「女性」が 17.5% (18,296 人) を占める (第 2 図)。このような構成は、これまでの調査とほとんど変わらない。

業種別では、商業・サービス業で「女性」が 32.9% と、製造業 (15.2%) や交通・運輸業 (13.3%) に比べて多くなっている。

第 2 図 性別

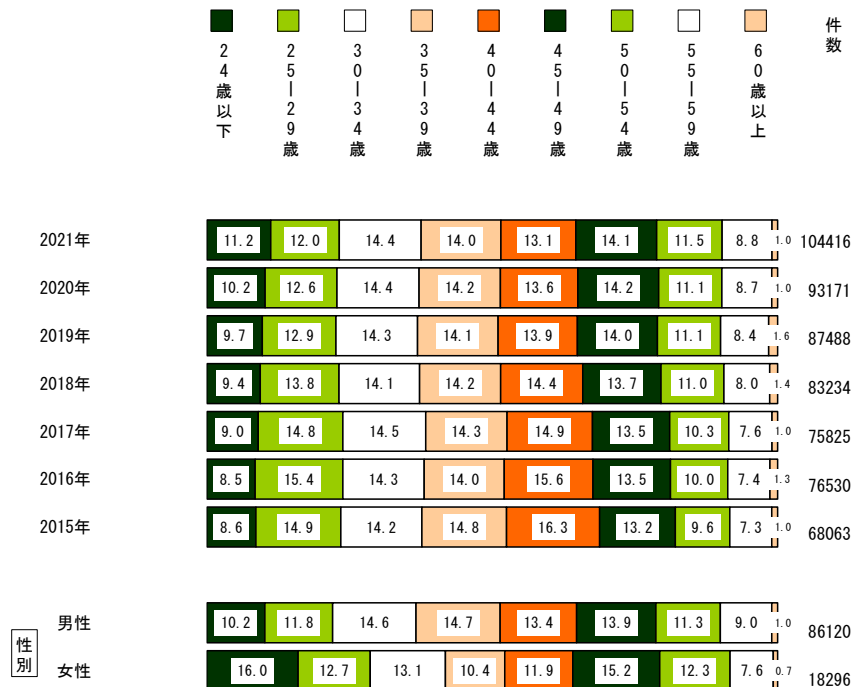


年齢構成は、24 歳以下から 50 代後半層まで広く分布しており、平均年齢は 39.1 歳 (平均勤続年数：15.8 年) である (第 3 図)。

女性では、男性に比べて 30 代後半層が少なく、24 歳以下層が多いことから、平均年齢が 38.2 歳と、男性 (39.3 歳) を 1 歳ほど下回っている。

また、業種別の平均年齢は、製造業が 39.0 歳、交通・運輸業が 40.1 歳、商業・サービス業が 39.1 歳となっている。

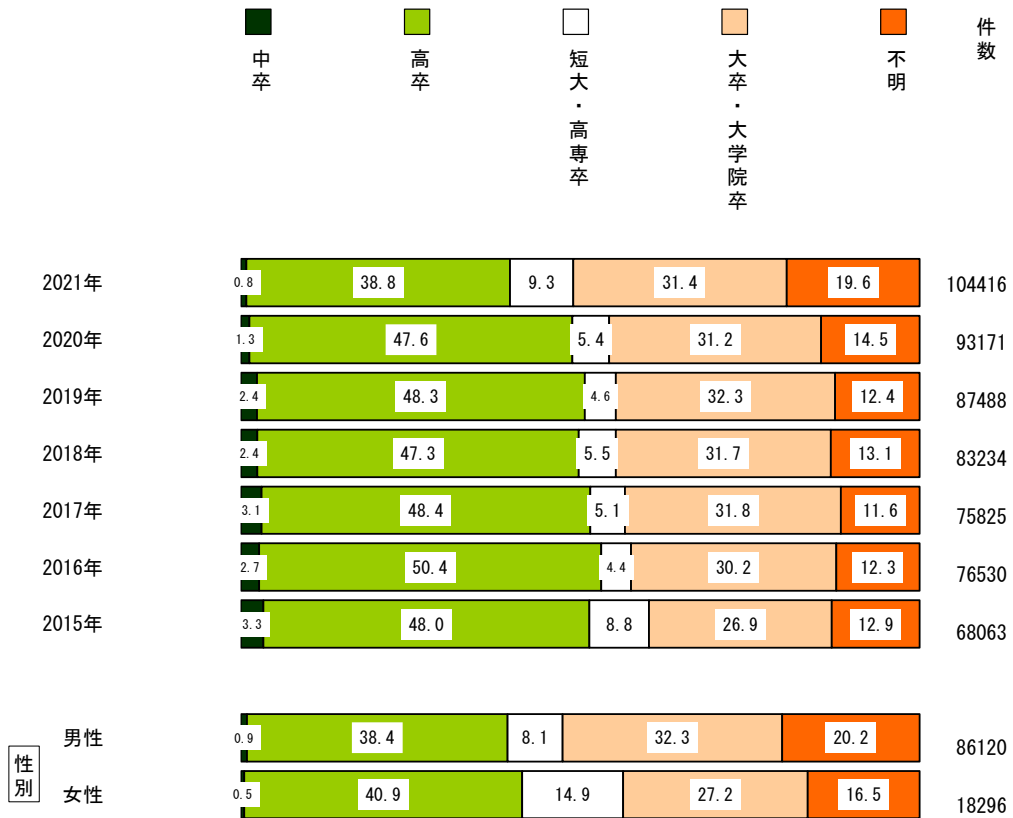
第 3 図 年齢



さらに、学歴構成では、「高卒」が38.8%、「大卒・大学院卒」が31.4%、「短大・高専卒」が9.3%、「中卒」が0.8%を占めている（第4図）。

性別にみても、「高卒」が最も多い点は共通しているが、女性では男性に比べて「短大・高専卒」(14.9%)が多くなっている。

第4図 学歴



# Ⅰ. 連合静岡全体の概況

## 1. 2021年調査における賃金実態

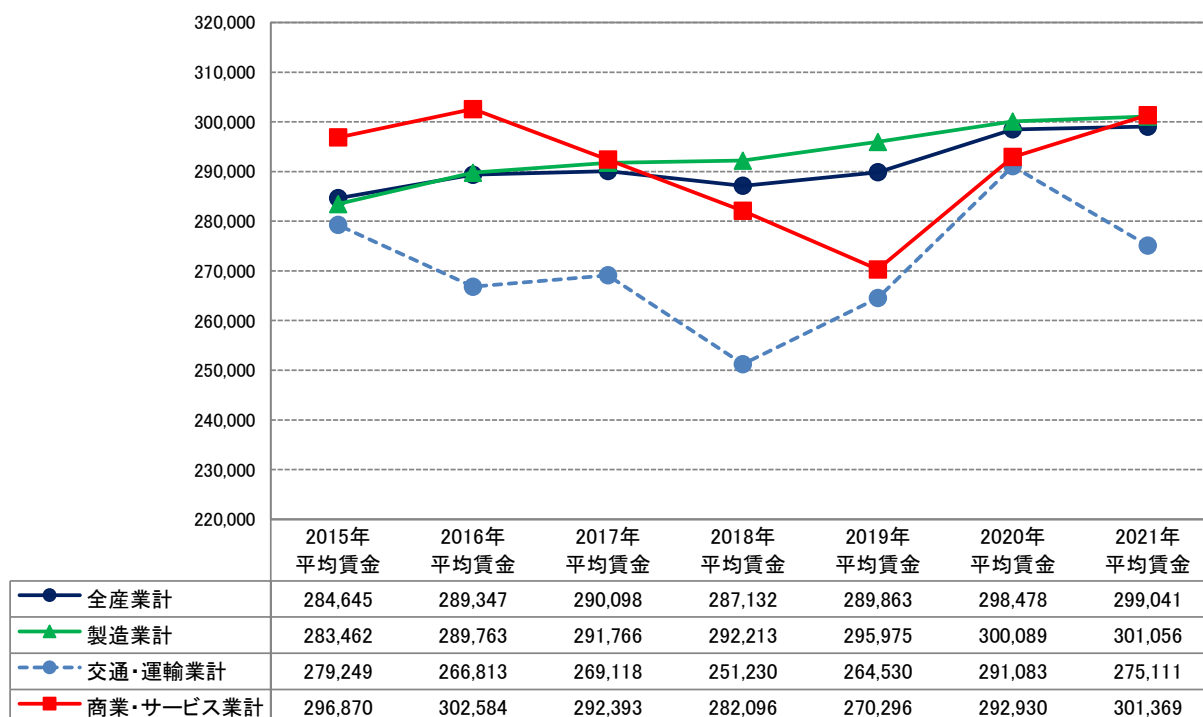
### (1) 全産業計および業種別

2021年調査における全産業計の平均賃金額は299,041円で、2020年調査(298,478円)に比べて600円弱の上昇(名目賃金上昇率:0.2%)にとどまっている(第Ⅰ-1図)。2019年調査から2020年調査の上昇率(3.0%)と比べると、今回調査の伸びはごく小さいものといえる。

業種別の平均賃金額は、「製造業」が301,056円(2020年調査:300,089円)、「交通・運輸業」が275,111円(同:291,083円)、「商業・サービス業」が301,369円(同:292,930円)である。

2020年調査と比べると、交通・運輸業で平均賃金額が大きく低下しているが、これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言が発令されるなど、人やモノの移動制限が加えられ、企業業績の停滞や悪化がもたらされたことなどが影響しているものと思われる。

第Ⅰ-1図 平均賃金額の推移(単位:円)



また、性別では、男性の平均賃金額が 306,241 円（2020 年：305,557 円、対前年比 0.2%のプラス）、女性が 265,153 円（同：260,464 円、同 1.8%のプラス）となっている（第 I - 1 表）。

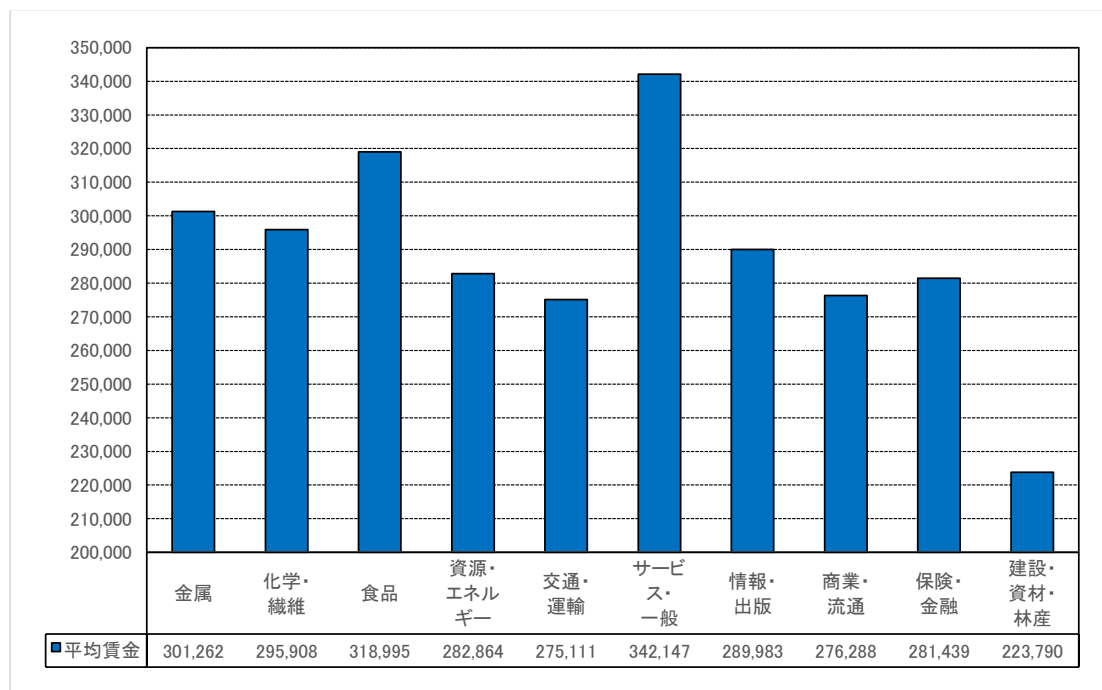
第 I - 1 表 業種別平均賃金額

	人数	平均年齢	平均勤続年数	2021年平均賃金	2020年平均賃金	2019年平均賃金	2018年平均賃金	2017年平均賃金	2016年平均賃金	2015年平均賃金	2021年-2020年
全産業計	104,416	39.1	15.8	299,041	298,478	289,863	287,132	290,098	289,347	284,645	563
男性	86,120	39.3	15.9	306,241	305,557	298,020	295,709	297,364	295,697	290,703	684
女性	18,296	38.2	14.9	265,153	260,464	248,747	246,436	252,587	254,174	249,774	4,689
製造業計	81,557	39.0	16.3	301,056	300,089	295,975	292,213	291,766	289,763	283,462	967
男性	69,164	39.1	16.3	308,461	306,913	302,787	299,023	298,737	296,388	289,714	1,548
女性	12,393	38.4	16.1	259,730	259,388	255,389	253,199	251,709	251,437	244,560	342
交通・運輸業計	8,284	40.1	13.6	275,111	291,083	264,530	251,230	269,118	266,813	279,249	-15,972
男性	7,179	40.5	14.1	282,263	298,064	270,060	257,175	276,381	271,901	284,447	-15,801
女性	1,105	37.2	10.8	228,652	237,661	215,130	211,640	219,689	216,537	221,816	-9,009
商業・サービス業計	14,575	39.1	14.0	301,369	292,930	270,296	282,096	292,393	302,584	296,870	8,439
男性	9,777	39.6	14.5	308,142	301,284	285,047	303,310	302,630	310,283	304,090	6,858
女性	4,798	38.1	13.0	287,567	270,884	238,097	238,887	265,159	279,688	276,256	16,683

注). 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

第 I - 2 図は、詳細な業種区分で平均賃金額をみたものであるが、最も高いのは「サービス・一般」の 342,147 円で、以下「食品」(318,995 円)、「金属」(301,262 円) などが続く一方、最も低いのは「建設・資材・林産」の 223,790 円となっている。

第 I - 2 図 業種別平均賃金額



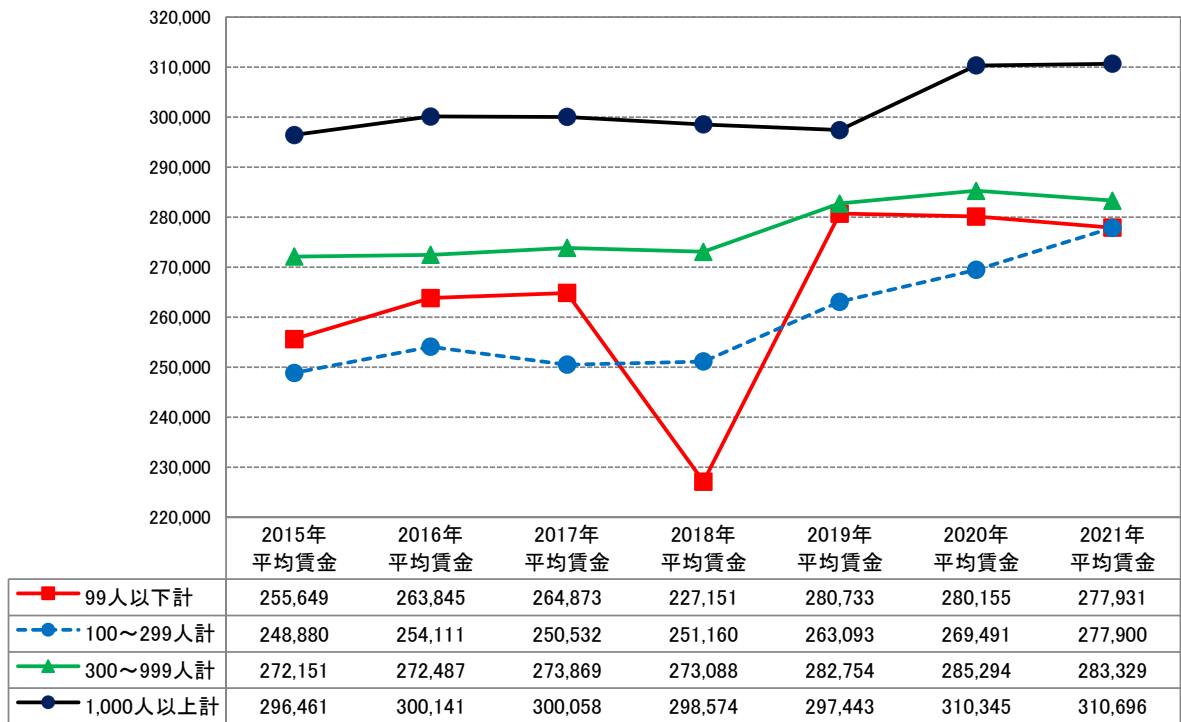


(2) 規模別

規模別（非正規社員を含めた全社従業員数）構成比は、「1,000人以上」（61.4%）が6割を超えており、「300～999人」（18.5%）を含めると、300人超の規模の参加組合が8割を占める（「99人以下」：10.1%、「100～299人」：10.0%）。

平均賃金額は、「99人以下」が277,931円、「100～299人」が277,900円、「300～999人」は283,329円、「1,000人以上」が310,696円となっており、1,000人以上規模と999人以下の規模で3万円前後の金額差が生じている（第1-3図、第1-2表）。

第1-3図 平均賃金額の推移（単位：円）



第1-2表 規模別平均賃金額

	人数	平均 年齢	平均 勤続年数	2021年 平均賃金	2020年 平均賃金	2019年 平均賃金	2018年 平均賃金	2017年 平均賃金	2016年 平均賃金	2015年 平均賃金	2021年 -2020年
99人以下計	10,496	41.0	15.5	277,931	280,155	280,733	227,151	264,873	263,845	255,649	-2,224
男性	8,431	41.0	15.1	283,881	287,350	287,752	229,237	269,181	267,144	261,423	-3,469
女性	2,065	40.8	17.1	253,637	248,046	248,765	211,988	231,392	236,206	218,173	5,591
100～299人計	10,493	38.1	14.6	277,900	269,491	263,093	251,160	250,532	254,111	248,880	8,409
男性	8,505	38.4	14.9	286,463	275,507	271,221	255,481	254,636	258,584	253,493	10,956
女性	1,988	36.9	13.1	241,266	243,913	223,900	226,686	226,739	228,024	220,153	-2,647
300～999人計	19,327	39.7	15.8	283,329	285,294	282,754	273,088	273,869	272,487	272,151	-1,965
男性	15,823	40.0	16.2	289,867	291,702	287,916	281,576	281,297	279,398	279,720	-1,835
女性	3,504	38.1	13.8	253,806	252,830	254,345	233,203	235,992	236,317	230,980	976
1,000人以上計	64,100	38.8	16.0	310,696	310,345	297,443	298,574	300,058	300,141	296,461	351
男性	53,361	38.9	16.2	317,781	317,311	306,802	308,311	307,818	306,692	302,139	470
女性	10,739	38.0	15.2	275,491	269,272	250,513	253,780	260,780	263,926	263,563	6,219

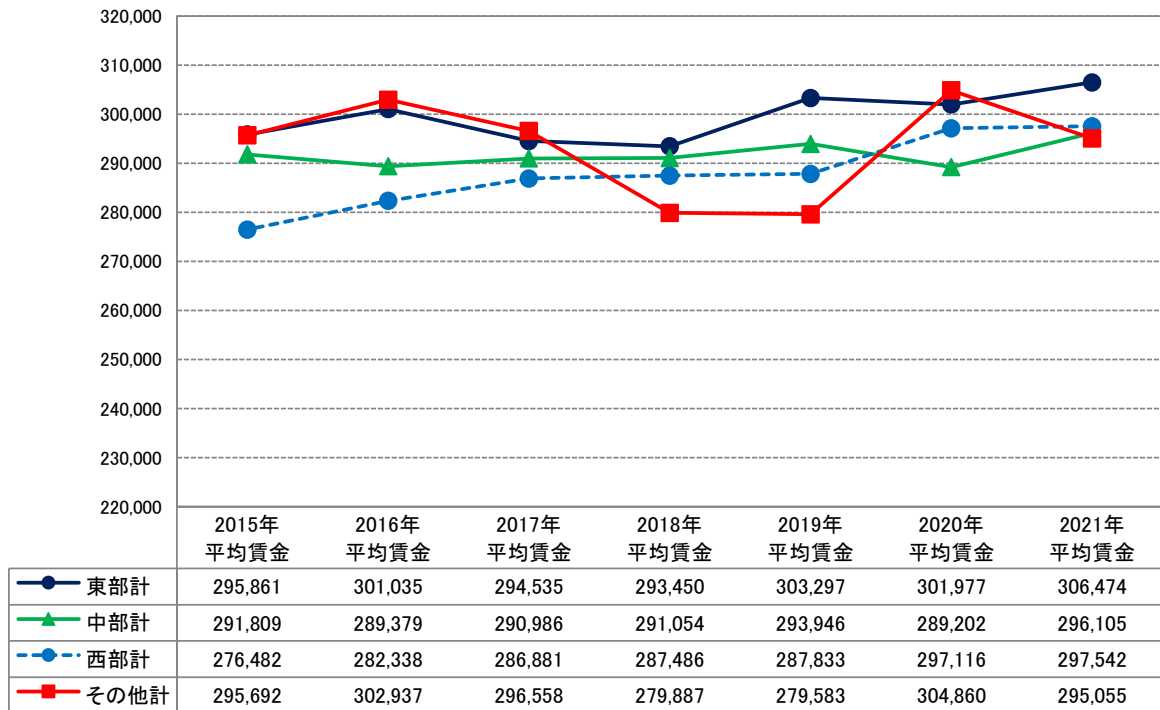
注). 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

### (3) 地域別

地域別構成では、「西部」(52.9%)が半数を超え、それ以外では「東部」(22.5%)が2割強、「中部」(9.4%)が1割となっている。また、「その他」(15.2%)には、静岡県下全域に事業所等が所在しているなど、上記地域区分に振りわけることが困難な組合が含まれる。

平均賃金額は、「東部」が306,474円、「中部」が296,105円、「西部」が297,542円であり、業種構成などの違いにも留意する必要があるが、最も高い東部と中部や西部の金額差は10,000円前後となっている(第1-4図、第1-3表)。

第1-4図 平均賃金額の推移(単位:円)



第1-3表 地域別平均賃金額

	人数	平均 年齢	平均 勤続年数	2021年 平均賃金	2020年 平均賃金	2019年 平均賃金	2018年 平均賃金	2017年 平均賃金	2016年 平均賃金	2015年 平均賃金	2021年 -2020年
東部計	23,524	40.3	17.6	306,474	301,977	303,297	293,450	294,535	301,035	295,861	4,497
男性	19,599	40.4	17.7	313,756	306,933	308,886	298,235	299,031	306,112	301,264	6,823
女性	3,925	39.7	17.5	270,113	268,941	267,070	267,011	268,356	272,803	265,089	1,172
中部計	9,843	40.0	16.2	296,105	289,202	293,946	291,054	290,986	289,379	291,809	6,903
男性	7,599	40.1	15.8	301,221	297,717	301,589	298,264	299,006	296,537	297,005	3,504
女性	2,244	39.9	17.6	278,779	256,454	261,956	260,878	257,874	255,603	262,101	22,325
西部計	55,209	38.5	15.5	297,542	297,116	287,833	287,486	286,881	282,338	276,482	426
男性	46,781	38.7	15.8	305,004	304,404	294,846	294,815	294,134	288,831	282,787	600
女性	8,428	37.2	14.2	256,121	255,335	245,898	244,318	243,660	242,109	235,780	786
その他計	15,840	38.9	13.5	295,055	304,860	279,583	279,887	296,558	302,937	295,692	-9,805
男性	12,141	39.2	13.9	302,018	312,928	293,137	295,049	306,258	310,415	303,019	-10,910
女性	3,699	38.0	12.2	272,201	270,886	238,108	235,641	260,312	270,257	264,318	1,315

注). 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

## 2. 年齢別賃金階級別にみた人員分布

第1-4表は、年齢別賃金階級別に全104,416人の分布をみたものである。

なお、表側（タテ軸）には、賃金額を10万円（「10万円」には9万円から10万円未満のデータを含む、9万円未満は集計対象外）から70万円以上まで1万円刻み、表頭（ヨコ軸）には、年齢を15歳から65歳以上まで1歳刻み、でそれぞれ区分している。また、表中には「1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額」（7,104円）が示されているが、これは20歳から40歳までの全データについて、年齢と賃金との関係を1次回帰した場合の直線の“傾き”のことを指している（表中の賃金カーブは、1次回帰は20歳から40歳まで、3次回帰は18歳から55歳まで）。

前節でみたように、平均賃金額は299,041円となっているが、最頻値は24万円台（2020年調査は27万円台）で、25万円台や27万円台がその後が続いている。男性の最頻値は25万円台、女性は22万円台である。

学校卒業後入職して間もない10代後半や20代前半層では、17～22万円台が多数を占めるが、30代や40代以降層でも20万円台前半や、第一十分位（賃金額の低い方から10%目にあたる値）の水準を下回る組合員がみられる点は留意すべきところといえる。

さらに、第1-5表は、表側を年齢1歳、表頭を勤続1年ごとに区分し、その平均賃金額を示したものであり、いわゆる実態賃金傾向値表である。

ちなみに、本表の勤続0年の欄は、中途入社者を含む初任賃金額の実態を示している。

以下、第1-6表～第1-8表は、製造業、交通・運輸業、商業・サービス業それぞれについて、年齢別賃金階級別に全体の人員分布をみたものである。



第 1-5 表 年齢別勤続年数別平均賃金表

年齢	勤続年数																																														
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	
勤務	299	210	222	223	228	235	244	255	259	271	275	279	282	299	294	305	311	325	334	334	330	326	326	331	338	341	338	341	344	354	358	368	361	365	363	362	370	369	365	360	373	378	377	343	329	308	310
平均	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	

この列は、いづゆる中途入社者も含めた平均初任賃金



第 1 - 7 表 年齢別賃金階級別人員分布表 (交通・運輸業)

項目	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	計						
0	1	87	97	119	136	152	221	247	248	213	241	219	213	184	217	205	205	209	196	183	205	200	159	138	161	162	170	165	196	201	222	269	205	165	177	166	171	171	144	179	192	203	198	121	99	88	80	45	39	82	4						
人数																																																									
平均年齢																																																									
平均勤続																																																									
平均賃金																																																									
1次回帰式による賃金の1歳当り上昇額(20-40歳)																																																									
人数																																																									
平均年齢																																																									
平均勤続																																																									
平均賃金																																																									
1次回帰式による賃金の1歳当り上昇額(20-40歳)																																																									
全産業・男女計																																																									
連合静岡2021年度																																																									
第1十分位 3次回帰																																																									
第1十分位 1次回帰																																																									
第1四分位 3次回帰																																																									
第1四分位 1次回帰																																																									

第1-8表 年齢別賃金階級別人員分布表(商業・サービス業)

階級	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	計
人数	14,575人																																																0		
平均年齢	39.1歳																																															0			
平均勤続	14.0年																																															0			
平均賃金	301,369円																																														0				
1次回帰式による賃金の1歳当り上昇額(20-40歳)	6,616円																																															0			
連合精団2021年度																																																0			
全産業・男女計																																																			
第1十分位 3次回帰																																																			
第1十分位 1次回帰																																																			
第1四分位 3次回帰																																																			
第1四分位 1次回帰																																																			



### 3. 回帰分析とは

#### (1) 回帰分析とは

一般的に、年齢と賃金との関係を考えてみると、年齢が高くなれば賃金も上がると想定されている。ただし、賃金は、年齢という要素だけで決定されるものではないため、個々の年齢によって賃金額にはバラツキが生じているはずである。

そこで、ヨコ軸に年齢、タテ軸に賃金額をとり、個々のデータをプロットしていくと、おおよそ右肩上がりのプロット図が描かれる。そのプロット図から、年齢と賃金との関係を示す線を引こうとする際に、このすべてのデータの真ん中を通る（個々の点からの距離の総和が最も短い位置にある、ズレが最小になる）ように引いた線を「回帰線」という。また、回帰線は、1次式では直線（回帰直線）、2次式以上では曲線（回帰曲線）で表される。

“賃金Yは年齢Xとの関係で決まっている”と想定し、回帰式で表すと、

1次式では「 $Y = aX + b$ 」（a：傾き、b：定数）となる。

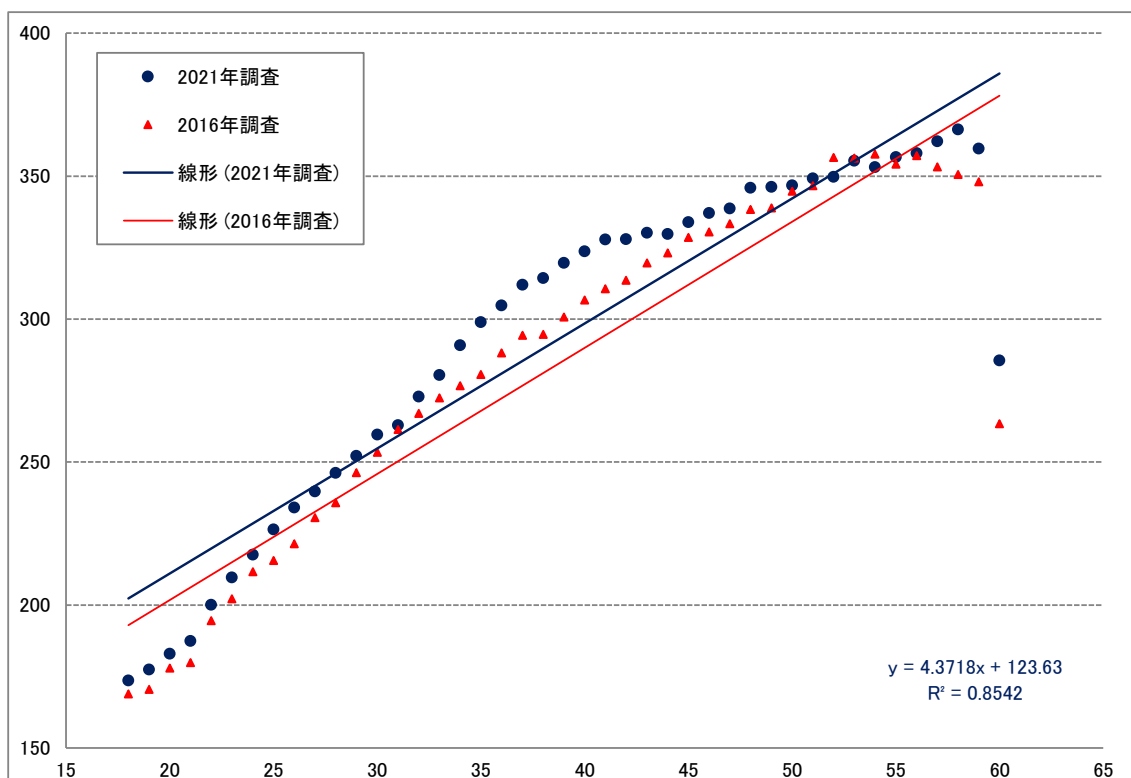
3次式では「 $Y = a_1X^3 + a_2X^2 + a_3X + b$ （定数）」となる。

※1次式は右肩上がりの直線、3次式は両端がゆるやかで中ほどで上昇するS字曲線

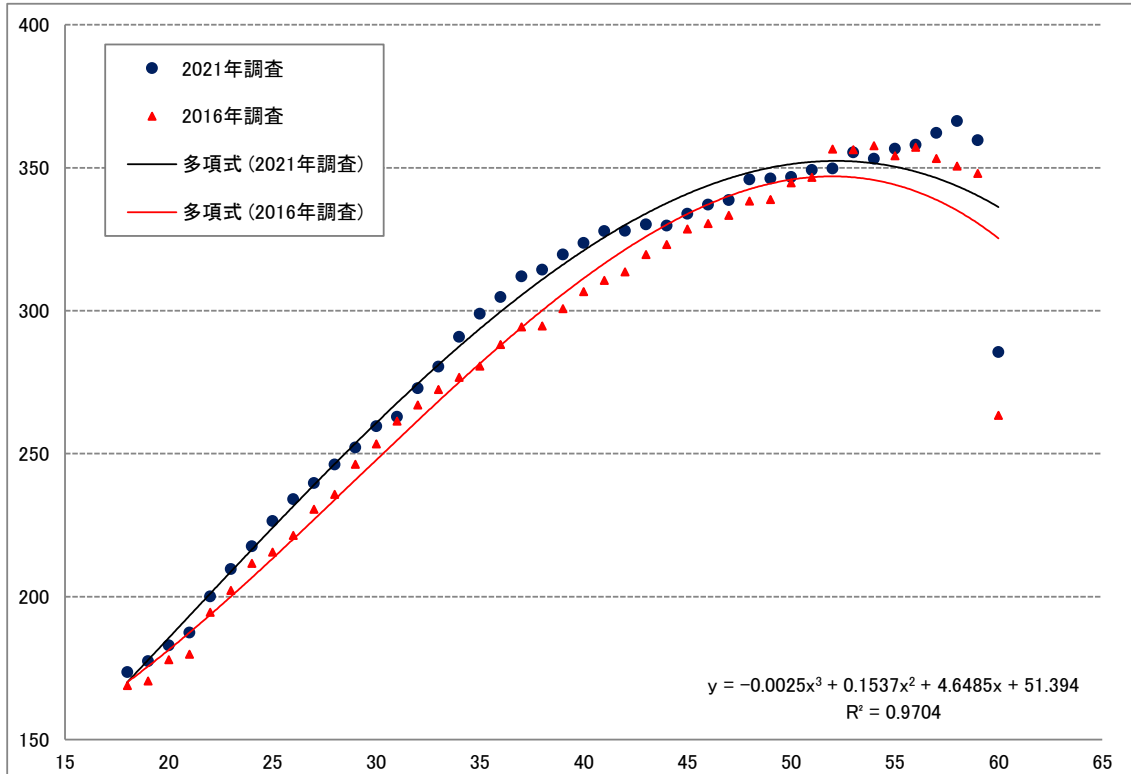
ちなみに、回帰計算は、変数を増やすとあてはまりがよくなるとされている。

なお、回帰式のあてはまりの程度を示す値としては、「決定係数（ $R^2$ ）」がある。決定係数は、0から1までの数値となり、1に近いほどあてはまりがよいとされる。とくに決まりはないが、0.8以上はあてはまりが非常によい、0.6以上はかなりよい、0.4以上はある程度よい、0.4未満はよくないと考えられている。

例1. 1次式の場合



例2. 3次式の場合



(2) 回帰分析で賃金を求める

例えば、ある年齢ポイントの賃金を求める場合、実在者のデータを利用して算出することになるが、そのデータの中に、賃金の極端に高い（低い）人がいたり、人数が極端に少なかったりすると、それらの影響を受け、1歳ごとの金額のブレが大きくなることが懸念される。

回帰分析で賃金を求めると、特定の年齢ポイントの賃金でも全体のデータから導き出されるため、ブレが少なく、なだらかな賃金カーブが描け、数値を得られることができる。また、実際に当該年齢ポイントに実在者がいなくても、推計値として算出することができるという利点もある。

さらに、年齢ポイントごとに安定的な賃金データが得られれば、1人あたりの1歳間差額（いわゆる賃金カーブ維持分）が求められる他、将来の総額人件費の予測などにも役立てることができる。

## II. 年齢ポイント別平均賃金

### 1. 性別

全産業計における年齢ポイント別平均賃金額は、20歳の182.9千円から55歳の356.6千円まで年齢の高まりとともに賃金額も上昇しており、右肩上がりの賃金カーブを描いている（第II-1図）。賃金カーブといった点では、男性に比べて女性で傾きが緩やかになっている。

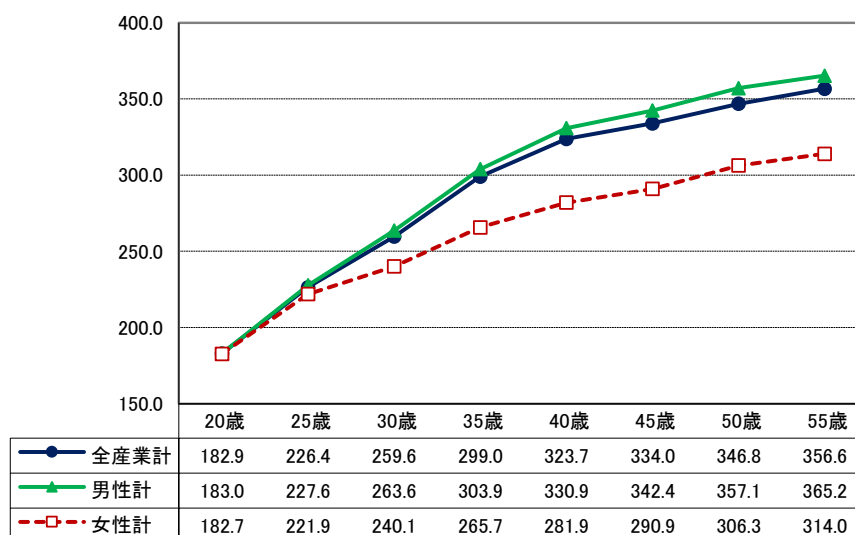
男女間の賃金格差（男性=100）に着目すると、20歳ではほとんど差は生じていないが、25歳以降徐々に差が開き始め、30歳で91、35歳以降は85～87で推移している。また、その金額差は、25歳では6千円程度だが、30歳で2万円強、40歳以降では5万円前後にまで広がっている。ただし、この格差には、同じ年齢ポイントでも男女間で勤続年数や学歴、職種構成など、属性上の違いも影響している点には留意する必要がある。

なお、年齢区間20～40歳のデータを利用して算出した賃金の1歳あたり上昇額（年齢を説明変数として賃金について1次回帰した場合の年齢係数＝「傾き」）は、7,140円（男性：7,470円、女性：4,615円）である。

第II-1図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	全産業計		男性計		女性計		男性 -女性	女性 /男性 (%)
		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		
20歳	182.9	100.0	183.0	100.0	182.7	100.0	0.3	99.9
25歳	226.4	123.8	227.6	124.4	221.9	121.5	5.7	97.5
30歳	259.6	141.9	263.6	144.1	240.1	131.4	23.5	91.1
35歳	299.0	163.5	303.9	166.1	265.7	145.4	38.2	87.4
40歳	323.7	177.0	330.9	180.8	281.9	154.3	49.0	85.2
45歳	334.0	182.6	342.4	187.2	290.9	159.2	51.5	85.0
50歳	346.8	189.6	357.1	195.2	306.3	167.7	50.8	85.8
55歳	356.6	195.0	365.2	199.6	314.0	171.9	51.2	86.0
傾き	7,140		7,470		4,615			

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



## 2. 業種別

20歳、35歳、45歳といった各年齢ポイントの平均賃金を業種別にみると、20歳では、製造業が182.4千円、交通・運輸業が185.9千円、商業・サービス業が185.3千円というように、交通・運輸業や商業・サービス業が製造業を上回る水準にある（第II-2図）。35歳では、交通・運輸業が305.9千円と最も高く、製造業（298.4千円）や商業・サービス業（299.1千円）を7千円前後上回るが、45歳になると、製造業（334.0千円）や商業・サービス業（339.4千円）が交通・運輸業（321.6千円）を1万円以上上回り、高低が逆転する。

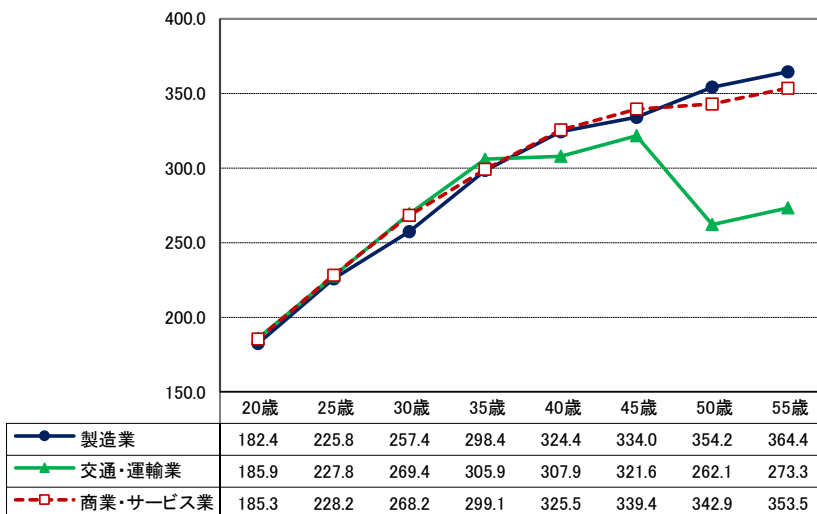
また、賃金カーブの傾き（20歳=100）といった点では、25歳まではほとんど差はみられないが、30歳で交通・運輸業や商業・サービス業が145と、製造業（141）に比べて傾きが大きくなる。35歳以降は、製造業や商業・サービス業の傾きが徐々に大きくなる一方で、交通・運輸業は40歳以降に横ばい、もしくは傾きが小さくなっている。

なお、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、製造業が7,225円、交通・運輸業が6,833円、商業・サービス業が6,616円である。

第II-2図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	製造業						交通・運輸業						商業・サービス業					
	総計		男性計		女性計		総計		男性計		女性計		総計		男性計		女性計	
	20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100	
20歳	182.4	100.0	182.6	100.0	181.9	100.0	185.9	100.0	186.0	100.0	185.7	100.0	185.3	100.0	184.7	100.0	186.1	100.0
25歳	225.8	123.8	227.4	124.6	218.7	120.2	227.8	122.5	231.1	124.2	209.7	112.9	228.2	123.1	226.4	122.5	231.3	124.3
30歳	257.4	141.1	261.4	143.2	233.9	128.6	269.4	144.9	274.0	147.3	240.2	129.3	268.2	144.7	274.5	148.6	256.0	137.5
35歳	298.4	163.6	302.7	165.8	259.0	142.4	305.9	164.5	314.6	169.2	248.9	134.0	299.1	161.4	305.4	165.3	282.6	151.8
40歳	324.4	177.8	330.7	181.2	273.2	150.2	307.9	165.6	324.9	174.7	240.8	129.7	325.5	175.6	334.0	180.8	305.7	164.3
45歳	334.0	183.1	343.0	187.9	282.8	155.4	321.6	173.0	330.7	177.8	249.7	134.5	339.4	183.1	345.5	187.0	322.1	173.1
50歳	354.2	194.2	365.1	200.0	302.7	166.4	262.1	141.0	268.0	144.1	232.3	125.0	342.9	185.0	351.0	190.0	329.2	176.9
55歳	364.4	199.8	374.5	205.1	305.3	167.8	273.3	147.0	276.2	148.5	244.3	131.5	353.5	190.7	356.5	193.0	348.4	187.2
傾き	7,225		7,546		4,337		6,833		7,373		3,420		6,616		7,097		5,345	

注)「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



### 3. 規模別

規模別にみると、20歳では、99人以下や300～999人の規模で17万円台、100～299人や1,000人以上で18万円台であるが、35歳では999人以下と1,000人以上の規模間格差が拡大し、999人以下は27～28万円台であるのに対して、1,000人以上では31万円台と3～4万円程度の差が生じている（第II-3図）。また、両者の格差は、45歳で3～5万円程度とやや拡大している。

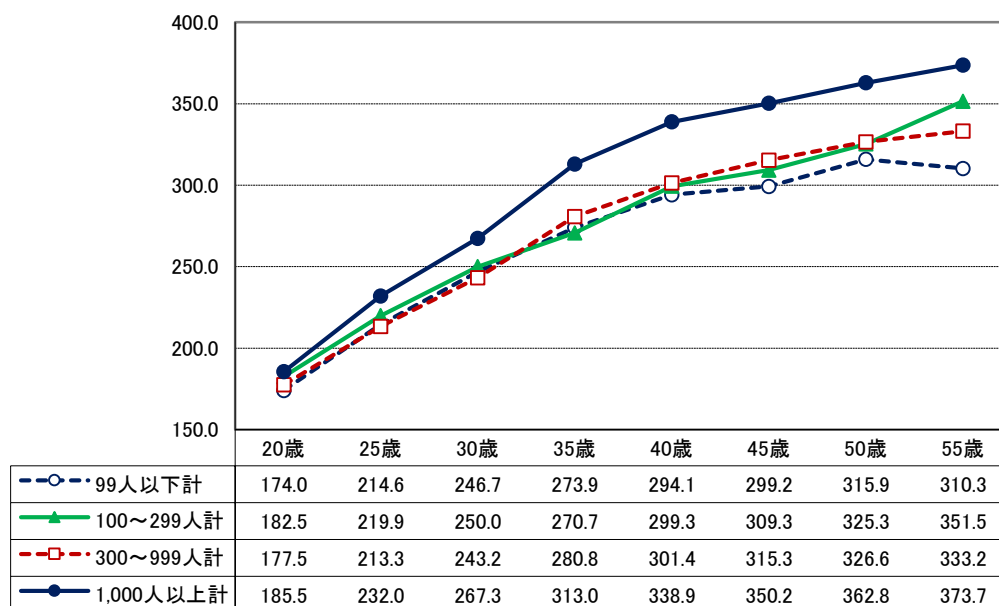
上記の差を賃金カーブの傾き（20歳=100）で確認すると、35歳あたりから999人以下と1,000人以上の差が目立つようになり、999人以下（99人以下：157、100～299人：148、300～999人：158）に比べて、1,000人以上では169となっている。

また、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、99人以下が5,835円、100～299人が5,672円と6千円を下回るのに対して、300～999人では6,174円、1,000人以上では7,790円と、規模間の差も大きい。

第II-3図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	99人以下計		100～299人計		300～999人計		1,000人以上計	
		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100
20歳	174.0	100.0	182.5	100.0	177.5	100.0	185.5	100.0
25歳	214.6	123.3	219.9	120.5	213.3	120.2	232.0	125.1
30歳	246.7	141.8	250.0	137.0	243.2	137.0	267.3	144.1
35歳	273.9	157.4	270.7	148.4	280.8	158.2	313.0	168.7
40歳	294.1	169.0	299.3	164.0	301.4	169.8	338.9	182.7
45歳	299.2	171.9	309.3	169.5	315.3	177.7	350.2	188.8
50歳	315.9	181.5	325.3	178.3	326.6	184.1	362.8	195.6
55歳	310.3	178.3	351.5	192.6	333.2	187.8	373.7	201.4
傾き	5,835		5,672		6,174		7,790	

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



#### 4. 地域別

地域別にみた第Ⅱ-4図によると、20歳の平均賃金額は、東部が182.1千円、西部が183.1千円と、中部（175.1千円）を1万円近く上回っているが、35歳では、東部が301.7千円で最も高くなり、中部（291.9千円）や西部（296.8千円）を上回る水準にある。45歳になると、最も高い東部（341.0千円）と、中部（320.8千円）や西部（331.7千円）との格差はやや拡大している。

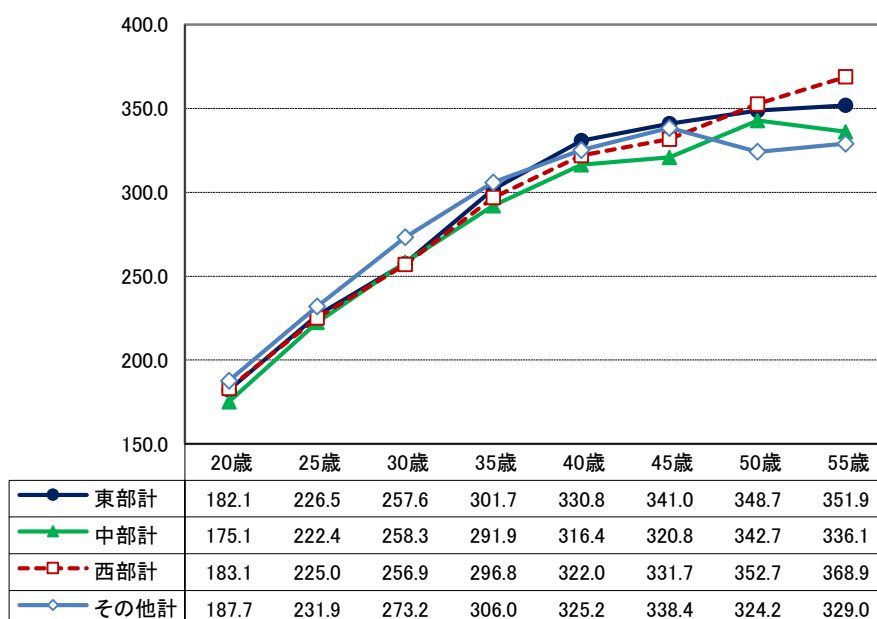
賃金カーブの傾き（20歳=100）は、30歳や35歳では、東部や西部に比べて中部で傾きが大きくなっているが、40歳では東部が中部や西部を上回るようになる。傾きのピークは、中部が50歳であるのに対して、東部や西部は55歳となっている。

なお、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、東部が7,556円、中部が6,936円、西部が7,071円である。

第Ⅱ-4図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	東部計		中部計		西部計		その他計	
		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100
20歳	182.1	100.0	175.1	100.0	183.1	100.0	187.7	100.0
25歳	226.5	124.4	222.4	127.0	225.0	122.9	231.9	123.6
30歳	257.6	141.5	258.3	147.5	256.9	140.3	273.2	145.5
35歳	301.7	165.6	291.9	166.8	296.8	162.1	306.0	163.0
40歳	330.8	181.6	316.4	180.8	322.0	175.9	325.2	173.2
45歳	341.0	187.2	320.8	183.3	331.7	181.2	338.4	180.3
50歳	348.7	191.4	342.7	195.8	352.7	192.7	324.2	172.7
55歳	351.9	193.2	336.1	192.0	368.9	201.5	329.0	175.3
傾き	7,556		6,936		7,071		6,788	

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



## 5. 2020年調査との比較

### (1) 全体比較

以下では、全産業計の結果を用いて、2020年調査との比較を行うことにする（第Ⅱ-5図）。

すでにみてきたように、2021年調査は、組合員数104,416人、平均年齢39.1歳、平均勤続年数15.8年、平均賃金額299,041円となっており、2020年調査（組合員数：93,171人、平均年齢：39.2歳、平均勤続年数：15.5年、平均賃金額：298,478円）との対比では、平均賃金額で600円弱の上昇にとどまっている。

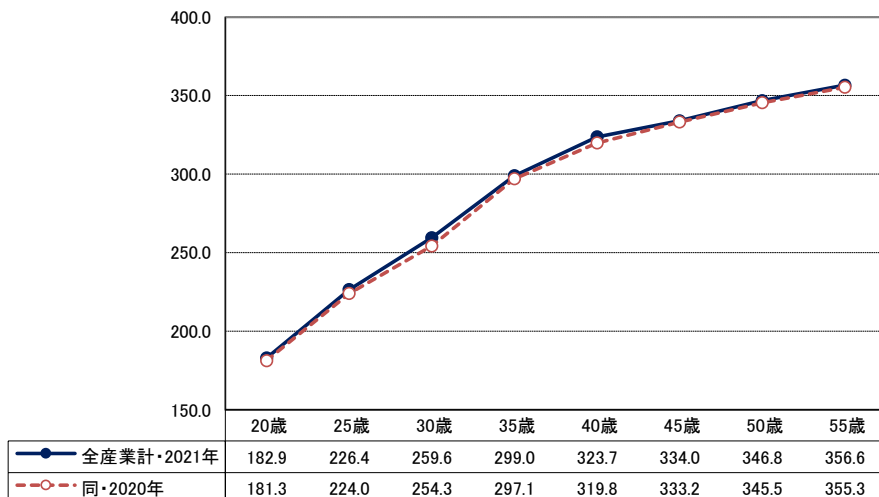
年齢ポイント別平均賃金額を2020年調査と比べると、いずれの年齢ポイントで賃金額は増加しているものの、その伸びは上昇幅が最も大きい30歳でも2%程度である。

なお、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は7,104円で、2020年調査（7,009円）に比べて95円（+1.4%）の増加となっている。

第Ⅱ-5図 年齢ポイント別平均賃金：全産業計（単位：千円）

	全産業計・2021年		同・2020年		同・2019年		同・2018年		同・2017年		同・2016年		同・2015年		上昇率 (%)	2021年 -2020年
		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		20歳 =100		
全産業計	299.0		298.5		289.9		287.1		290.1		289.3		284.6		0.2	0.6
20歳	182.9	100.0	181.3	100.0	178.6	100.0	176.5	100.0	175.1	100.0	177.9	100.0	174.4	100.0	0.9	1.6
25歳	226.4	124.9	224.0	123.6	220.9	123.7	218.3	123.7	219.2	125.2	215.6	121.2	208.9	119.8	1.1	2.4
30歳	259.6	143.2	254.3	140.3	251.1	140.6	249.0	141.1	254.3	145.2	253.4	142.4	249.4	143.0	2.1	5.3
35歳	299.0	164.9	297.1	163.9	289.8	162.3	286.5	162.3	284.6	162.5	280.7	157.8	275.0	157.7	0.6	1.9
40歳	323.7	178.6	319.8	176.4	312.1	174.8	303.3	171.8	306.3	174.9	306.7	172.4	305.3	175.0	1.2	3.9
45歳	334.0	184.2	333.2	183.8	321.1	179.8	323.1	183.0	325.4	185.8	328.6	184.7	323.5	185.4	0.2	0.8
50歳	346.8	191.3	345.5	190.6	339.5	190.1	335.5	190.1	343.3	196.0	344.7	193.7	338.3	193.9	0.4	1.3
55歳	356.6	196.7	355.3	196.0	348.9	195.4	353.7	200.3	356.9	203.8	354.2	199.1	348.9	200.0	0.4	1.3
傾き	7,104		7,009		6,928		6,479		6,541		6,356		6,392			

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



第Ⅱ-1表は、年齢ポイント別平均賃金を性別、業種別、規模別、地域別に整理したものである。

第Ⅱ-1表 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	全産業計		2021年 -2020年	男性		2021年 -2020年	女性		2021年 -2020年
	2021年	2020年		2021年	2020年		2021年	2020年	
20歳	182.9	181.3	1.6	183.0	181.7	1.2	182.7	179.8	2.9
25歳	226.4	224.0	2.4	227.6	225.9	1.7	221.9	216.1	5.8
30歳	259.6	254.3	5.3	263.6	258.7	4.9	240.1	232.1	8.0
35歳	299.0	297.1	1.9	303.9	302.0	1.8	265.7	257.0	8.7
40歳	323.7	319.8	3.9	330.9	326.9	4.0	281.9	274.8	7.1
45歳	334.0	333.2	0.8	342.4	341.5	0.9	290.9	287.4	3.5
50歳	346.8	345.5	1.3	357.1	354.0	3.1	306.3	303.1	3.2
55歳	356.6	355.3	1.3	365.2	363.0	2.2	314.0	310.7	3.3
傾き	7,140	7,009		7,470	7,375		4,615	4,287	

	製造業		2021年 -2020年	交通・運輸業		2021年 -2020年	商業・サービス業		2021年 -2020年
	2021年	2020年		2021年	2020年		2021年	2020年	
20歳	182.4	180.2	2.2	185.9	192.7	-6.8	185.3	178.7	6.7
25歳	225.8	222.4	3.5	227.8	238.7	-10.9	228.2	222.4	5.9
30歳	257.4	252.4	4.9	269.4	281.4	-12.0	268.2	247.1	21.1
35歳	298.4	297.5	0.9	305.9	313.7	-7.8	299.1	285.7	13.4
40歳	324.4	321.2	3.1	307.9	328.8	-20.9	325.5	303.5	22.1
45歳	334.0	333.7	0.3	321.6	329.3	-7.6	339.4	332.4	7.1
50歳	354.2	353.8	0.4	262.1	272.1	-10.0	342.9	331.8	11.2
55歳	364.4	361.5	2.9	273.3	299.5	-26.1	353.5	352.7	0.8
傾き	7,225	7,226		6,833	6,764		6,616	6,100	

	99人以下		2021年 -2020年	100～299人		2021年 -2020年	300～999人		2021年 -2020年	1,000人以上		2021年 -2020年
	2021年	2020年		2021年	2020年		2021年	2020年		2021年	2020年	
20歳	174.0	173.5	0.5	182.5	178.3	4.2	177.5	177.8	-0.4	185.5	184.8	0.7
25歳	214.6	219.4	-4.8	219.9	212.9	7.0	213.3	214.5	-1.2	232.0	229.1	2.9
30歳	246.7	252.1	-5.3	250.0	234.3	15.7	243.2	244.3	-1.1	267.3	261.2	6.1
35歳	273.9	275.4	-1.5	270.7	263.2	7.5	280.8	280.2	0.6	313.0	310.4	2.6
40歳	294.1	299.5	-5.3	299.3	289.4	9.9	301.4	303.9	-2.6	338.9	333.0	5.9
45歳	299.2	313.6	-14.4	309.3	300.8	8.5	315.3	317.6	-2.3	350.2	346.1	4.1
50歳	315.9	321.9	-6.0	325.3	315.0	10.3	326.6	334.4	-7.8	362.8	358.4	4.4
55歳	310.3	324.1	-13.8	351.5	336.8	14.7	333.2	348.1	-14.9	373.7	365.5	8.2
傾き	5,835	5,949		5,672	5,208		6,174	6,442		7,790	7,567	

	東部		2021年 -2020年	中部		2021年 -2020年	西部		2021年 -2020年	その他		2021年 -2020年
	2021年	2020年		2021年	2020年		2021年	2020年		2021年	2020年	
20歳	182.1	176.5	5.7	175.1	173.3	1.7	183.1	181.4	1.7	187.7	191.4	-3.7
25歳	226.5	221.6	4.9	222.4	219.7	2.7	225.0	221.8	3.2	231.9	234.3	-2.4
30歳	257.6	249.4	8.3	258.3	254.5	3.7	256.9	251.5	5.4	273.2	273.3	-0.2
35歳	301.7	298.5	3.1	291.9	281.9	10.0	296.8	295.8	1.0	306.0	306.9	-1.0
40歳	330.8	321.8	9.0	316.4	301.5	15.0	322.0	319.9	2.1	325.2	329.7	-4.5
45歳	341.0	333.0	7.9	320.8	321.7	-0.9	331.7	330.9	0.8	338.4	348.4	-10.0
50歳	348.7	342.9	5.8	342.7	333.9	8.8	352.7	352.2	0.6	324.2	329.4	-5.2
55歳	351.9	337.8	14.1	336.1	343.5	-7.4	368.9	363.9	5.0	329.0	352.6	-23.5
傾き	7,556	7,369		6,936	6,326		7,071	7,083		6,788	6,857	

注) 「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



(2) 同一組合比較

さらに、より厳密に2020年調査と比較を行うために、今年度(2021年)と前年度(2020年)双方に参加している同一組合を抽出し、整理することにする。

抽出された同一組合数は191組合(今回調査における集計対象250組合のうちの76.4%)であり、2020年調査は88,332人、平均年齢が39.1歳、平均勤続年数が15.6年、平均賃金額が298,601円である。一方、2021年調査は90,163人、同39.1歳、同15.8年、同298,474円となっており、平均賃金額はほぼ同水準で推移している。

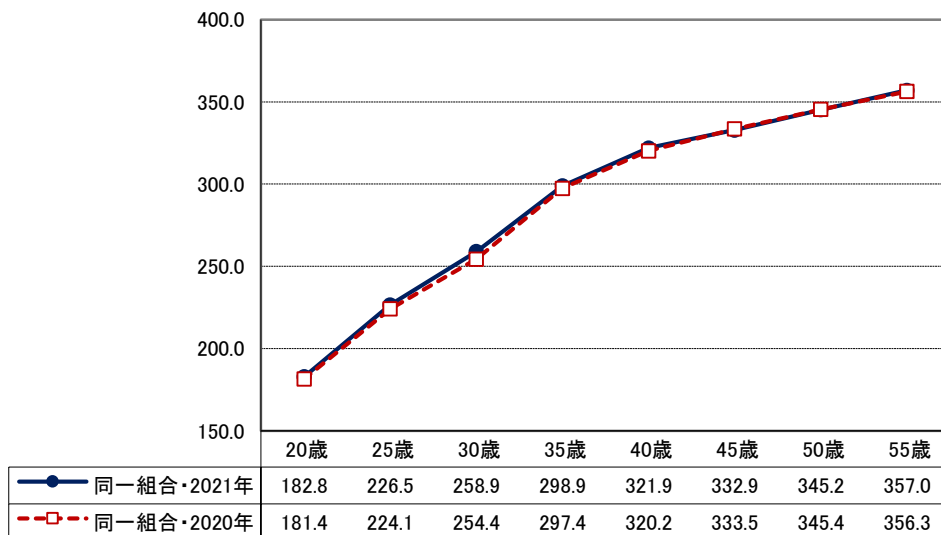
第II-6図により、年齢ポイント別平均賃金額を2020年調査と比べると、25歳や30歳を中心に若年層で賃金額が増加しているものの、その伸びは1~2%程度である。

なお、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は7,031円で、2020年調査(7,043円)とほとんど変わらない。

第II-6図 年齢ポイント別平均賃金：全産業計(単位：千円)

	同一組合・2021年		同一組合・2020年		上昇率 (%)	2021年 -2020年
	20歳 =100		20歳 =100			
20歳	182.8	100.0	181.4	100.0	0.8	1.4
25歳	226.5	123.9	224.1	123.5	1.1	2.4
30歳	258.9	141.6	254.4	140.2	1.8	4.5
35歳	298.9	163.5	297.4	163.9	0.5	1.5
40歳	321.9	176.1	320.2	176.5	0.5	1.7
45歳	332.9	182.1	333.5	183.8	-0.2	-0.7
50歳	345.2	188.8	345.4	190.3	0.0	-0.2
55歳	357.0	195.3	356.3	196.4	0.2	0.7
傾き	7,031		7,043			

注)。「傾き」は年齢区間20~40歳、単位は円。



ちなみに、第Ⅱ－7図は、今年度（2021年）と5年前（2016年）双方に参加している同一組合を抽出し、整理したものである。

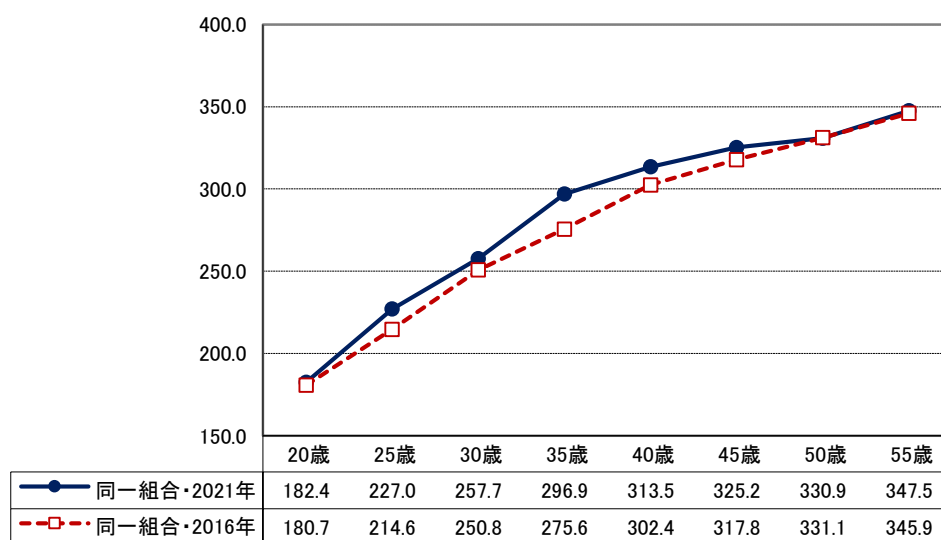
抽出された同一組合数は98組合であるが、2021年調査（集計対象数：48,642人、平均年齢：38.7歳、平均勤続年数：15.3年）における平均賃金額は290,122円で、2016年調査（同：44,643人、同：38.6歳、同：14.9年）の281,736円に比べて8,386円（+3.0%）の増加となっている。

ただし、この5年間、2016年から2021年までの消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合、年平均）は2%程度上昇しており、それを加味すると実質では1%程度の伸びにとどまることから、主に物価上昇を背景に十分な賃上げ実感を得るには至っていない実態をうかがわせている。

第Ⅱ－7図 年齢ポイント別平均賃金：全産業計（単位：千円）

	同一組合・2021年		同一組合・2016年		上昇率 (%)	2021年 －2016年
		20歳 =100		20歳 =100		
20歳	182.4	100.0	180.7	100.0	0.9	1.7
25歳	227.0	124.5	214.6	118.8	5.8	12.4
30歳	257.7	141.3	250.8	138.8	2.8	6.9
35歳	296.9	162.8	275.6	152.5	7.7	21.3
40歳	313.5	171.9	302.4	167.4	3.7	11.0
45歳	325.2	178.3	317.8	175.9	2.3	7.3
50歳	330.9	181.4	331.1	183.3	-0.1	-0.2
55歳	347.5	190.5	345.9	191.5	0.5	1.6
傾き	6,576		5,934			

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



### Ⅲ. 「賃金構造基本統計調査・静岡」の結果

以下では、厚生労働省が実施している『賃金構造基本統計調査（賃金センサス）』（「主要産業に雇用される労働者について、その賃金の実態を労働者の雇用形態、就業形態、職種、性、年齢、学歴、勤続年数、経験年数別等に明らかにする」ことを目的に、毎年7月に実施されている基幹統計）の結果を活用し、連合静岡「個別賃金実態調査」の結果と照らし合わせておく。

#### 1. 賃金構造基本統計調査にみる静岡の概況

まず、「賃金構造基本統計調査」（以下、賃金センサス）の結果から、静岡の概況を確認すると、労働者数は821,150人（2020年：836,220人）で、うち男性が542,740人（同：548,900人）と全体の3分の2に及び、女性は278,420人（同：287,310人）である。

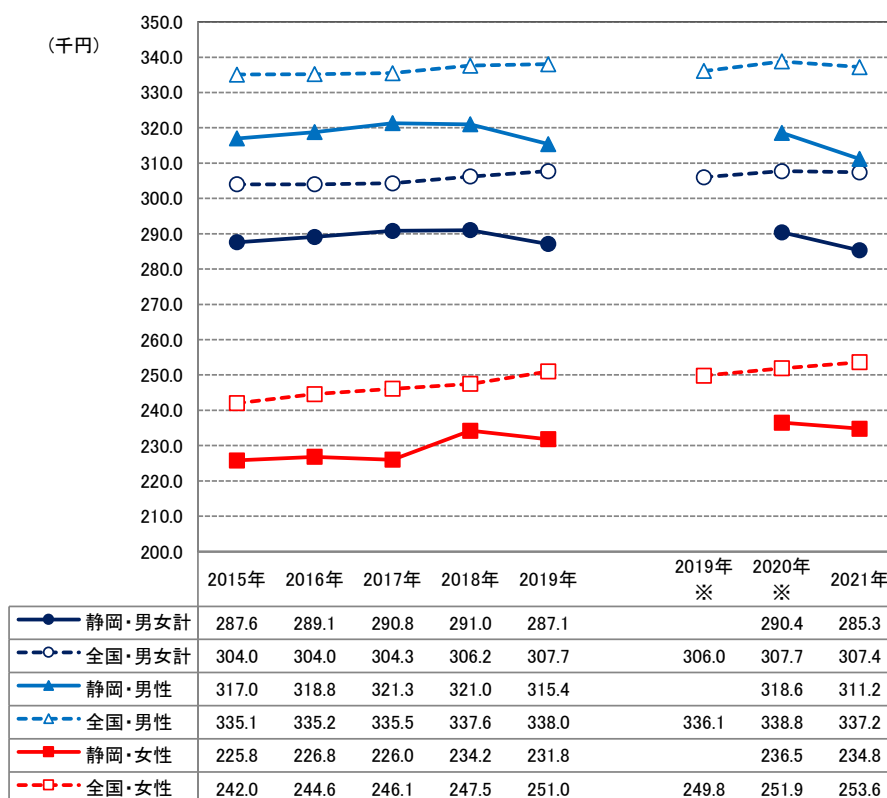
静岡の一般労働者（短時間労働者を除く）の所定内給与額は、全体で285.3千円（年齢：43.5歳、勤続年数：12.6年）となっており、男性が311.2千円（同：43.9歳、同：14.0年）、女性が234.8千円（同：42.9歳、同：10.1年）である（第Ⅲ-1図）。

2020年調査と比べると、男女ともに賃金額は減少している。

男女間の賃金格差といった点では、わずかずつではあるが調査のたびに縮小している（男性=100とすると、2015年調査が71.2、2021年調査では75.5）。

ちなみに、表は省略するが、賃金センサスの結果から静岡の一般労働者の年収額（「きまって支給する現金給与額」×12+「年間賞与その他特別給与額」）を算出すると、男性が518.4万円、女性が358.7万円となる。

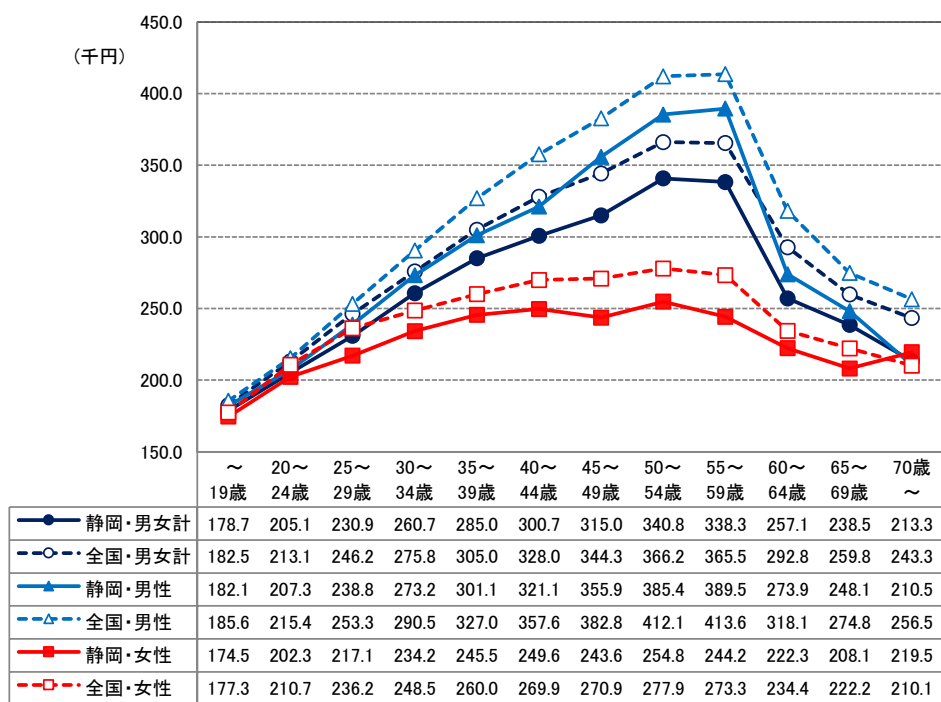
第Ⅲ-1図 所定内給与額の推移



資料出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。  
※2020年より推計方法が変更。2019年の数値は、推計方法を合わせた再集計値。

第Ⅲ-2図により、年齢階級別に賃金額をみると、男性の場合、年齢階級の高まりとともに賃金額も上昇し、50代後半層（389.5千円、20～24歳を100とすると188）がピークとなっている。一方、女性の賃金額のピークは50代前半層（254.8千円、同層を100とすると126）であるが、30代後半から50代後半層にかけては24～25万円台で推移している。また、女性では、男性に比べて賃金カーブの傾きがより緩やかとなっており、40代後半から50代後半層では賃金額の差もより大きいことがわかる。

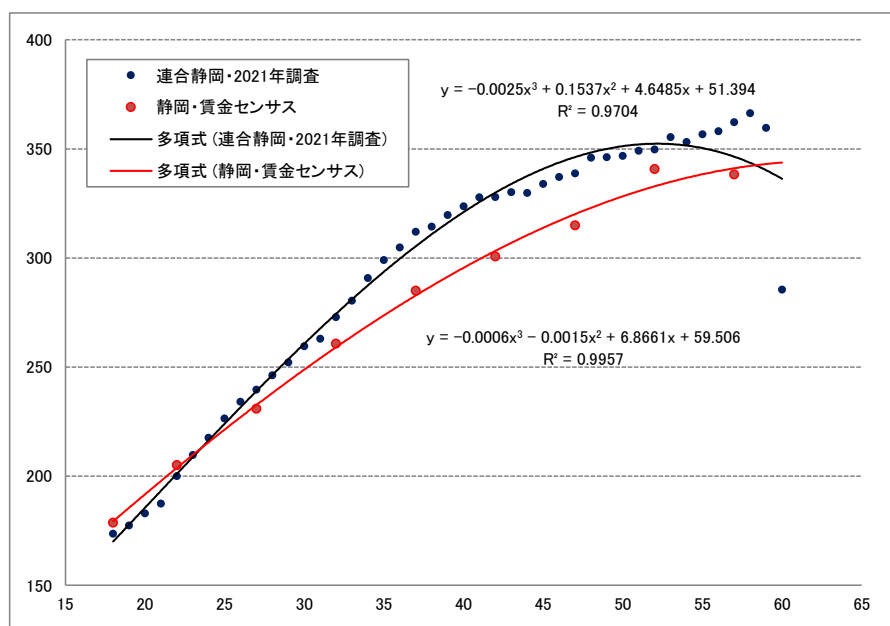
第Ⅲ-2図 年齢階級別所定内給与額



資料出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。

第Ⅲ-3図 「個別賃金実態調査」と「賃金構造基本統計調査」のプロット図  
(タテ軸：万円、ヨコ軸：歳)

なお、参考までに、連合静岡「個別賃金実地調査」の年齢ポイント別賃金（18歳から60歳）と、賃金センサスの年齢階級別賃金（19歳以下から55～59歳までの9階級）の双方をプロットし、賃金カーブをそれぞれ描くと第Ⅲ-3図のようになる。



資料出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。

賃金センサスでは、雇用形態別の結果も公表されているが、以下の第Ⅲ－1表は、賃金センサスの全国の結果について、民営事業所と公営事業所を合わせた正社員・正職員、民営事業所で雇用期間の定めのない者の賃金額を整理したものである。

第Ⅲ－1表 雇用形態別にみた年齢階級別所定内給与額（単位：千円）

	民営＋公営 正社員・正職員計		男性計	女性計	民営・雇用期間 の定めなし計		男性計	女性計
		2020年				2020年		
産業計	324.1	324.7	349.3	271.6	318.2	319.6	345.9	263.7
19歳以下	183.8	180.2	186.8	178.6	183.7	181.1	186.7	178.3
20－24歳	216.7	215.6	218.0	215.3	216.7	215.8	218.2	215.1
25－29歳	251.4	249.8	257.1	242.9	250.2	249.4	256.4	241.1
30－34歳	284.4	283.1	296.3	259.8	281.1	281.2	293.8	255.2
35－39歳	316.6	316.7	334.1	275.5	311.5	312.7	330.6	268.5
40－44歳	342.4	343.8	365.2	289.4	336.0	338.5	361.8	279.6
45－49歳	361.8	366.0	390.8	294.0	354.4	358.5	387.3	282.9
50－54歳	389.0	392.8	423.0	306.7	378.6	382.4	418.5	291.7
55－59歳	393.6	397.9	429.0	306.6	380.9	385.3	423.6	288.3
60－64歳	330.7	329.1	352.6	272.4	315.8	315.8	346.6	250.1
65－69歳	299.8	296.6	310.8	268.6	272.1	278.0	288.5	236.5
70歳以上	280.1	283.1	291.3	248.6	259.0	260.1	271.3	228.9

出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。

注) 全国の数値、企業規模計は10人以上、金額は所定内給与額

## 2. 性別

第Ⅲ－４図は、賃金センサスと同様な年齢階層に区分して、平均賃金を整理したものである（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）。

男性の結果に着目すると、24歳以下や40代後半以降層では賃金センサス（平均年齢：44.1歳、平均勤続年数：13.7年、平均所定内給与額：337.2千円）を下回るものの、20代後半から40代後半前半層では上回る水準にある（連合静岡の男性：平均年齢39.3歳、平均勤続年数15.9年、平均賃金額306,241円）。なお、連合静岡調査は、公務関係組織のデータが含まれる他、賃金センサスに比べて平均年齢で5歳近く、賃金額でも3.1万円程度下回っている点をあらかじめ指摘しておく。

また、賃金センサスの結果をみる際には、調査対象者に部長や課長といった役職層も含まれている点、所定内給与額に通勤手当が含まれている点にも留意する必要がある。

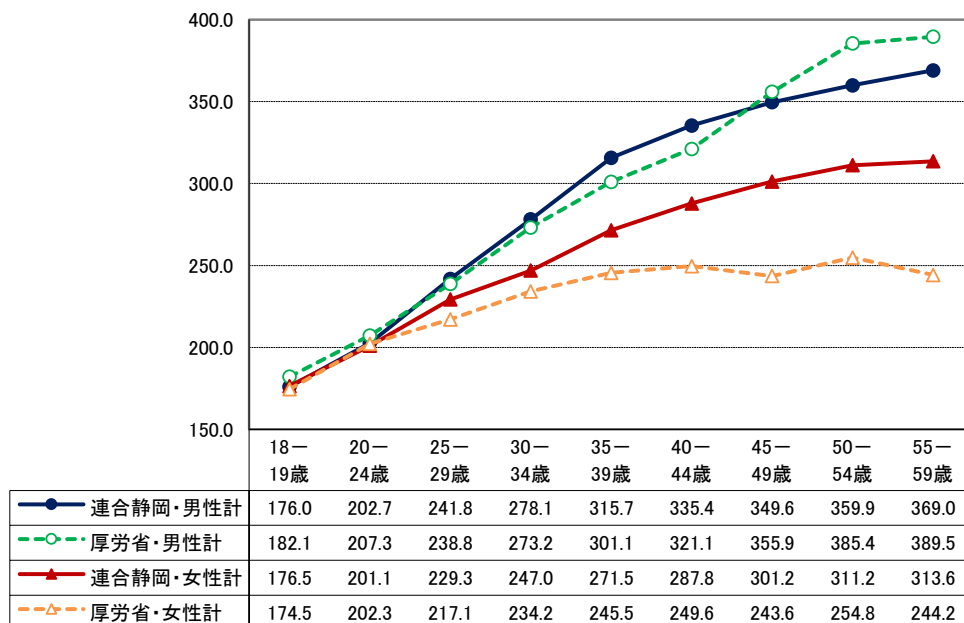
第Ⅲ－４図 年齢階層別平均賃金（単位：千円）

（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）

	全産業計			対厚労省・男性		企業規模計		
	男性計	女性計				男性計	女性計	
18－19歳	176.1	176.0	176.5	96.6	19歳以下	178.7	182.1	174.5
20－24歳	202.3	202.7	201.1	97.8	20－24歳	205.1	207.3	202.3
25－29歳	239.5	241.8	229.3	101.3	25－29歳	230.9	238.8	217.1
30－34歳	273.1	278.1	247.0	101.8	30－34歳	260.7	273.2	234.2
35－39歳	309.9	315.7	271.5	104.8	35－39歳	285.0	301.1	245.5
40－44歳	327.8	335.4	287.8	104.5	40－44歳	300.7	321.1	249.6
45－49歳	340.5	349.6	301.2	98.2	45－49歳	315.0	355.9	243.6
50－54歳	350.7	359.9	311.2	93.4	50－54歳	340.8	385.4	254.8
55－59歳	360.6	369.0	313.6	94.7	55－59歳	338.3	389.5	244.2

出所) 厚生労働省『令和3年賃金構造基本統計調査』

注) 静岡の数値、企業規模計は10人以上、金額は所定内給与額



### 3. 業種別・製造業の場合

第Ⅲ－5図は、製造業・男性に着目し、年齢階層別に平均賃金額を整理（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）したものであるが、連合静岡調査（平均年齢：39.1歳、平均勤続年数：16.3年、平均賃金額：308,461円）の場合、18－19歳の176.1千円から50代後半層の377.6千円まで年齢の高まりとともに賃金額も増加している。一方、賃金センサス（同：43.2歳、同：15.5年、平均所定内給与額：306.6千円）も、年齢の高まりとともに賃金額が増加しているものの、その傾きは40代前半層までは緩やかなものとなっている。

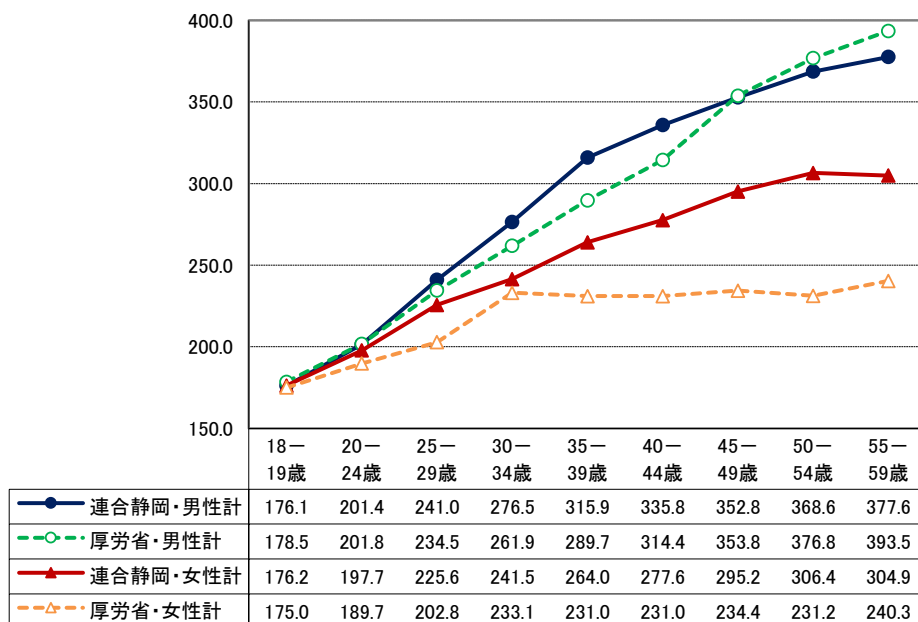
第Ⅲ－5図 年齢階層別平均賃金・製造業（単位：千円）

（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）

	製造業計			対厚労省・男性		製造業計		
	男性計	女性計				男性計	女性計	
18－19歳	176.1	176.1	176.2	98.7	19歳以下	177.1	178.5	175.0
20－24歳	200.6	201.4	197.7	99.8	20－24歳	197.7	201.8	189.7
25－29歳	238.7	241.0	225.6	102.8	25－29歳	227.5	234.5	202.8
30－34歳	271.8	276.5	241.5	105.6	30－34歳	256.0	261.9	233.1
35－39歳	310.5	315.9	264.0	109.1	35－39歳	279.9	289.7	231.0
40－44歳	328.1	335.8	277.6	106.8	40－44歳	300.8	314.4	231.0
45－49歳	342.6	352.8	295.2	99.7	45－49歳	322.4	353.8	234.4
50－54歳	358.4	368.6	306.4	97.8	50－54歳	344.3	376.8	231.2
55－59歳	367.8	377.6	304.9	96.0	55－59歳	354.2	393.5	240.3

出所) 厚生労働省『令和3年賃金構造基本統計調査』

注) 静岡の数値、企業規模計は10人以上、金額は所定内給与額



## 参考 非正規社員組合員の賃金

以下では、今回調査で集約された非正規社員の賃金実態について簡単に整理しておく。

集計対象（44 組合）となった非正規社員組合員数は 12,927 人（平均年齢：51.8 歳、平均勤続年数：9.1 年、平均賃金額：138,373 円）である（2020 年調査の集計対象組合数は 30 組合、3,850 人）。

男性（3,238 人）の場合、平均年齢 52.8 歳、平均勤続年数 11.0 年、平均賃金額 189,352 円となっており、再雇用社員（再任用職員など）と思われる 60 歳以上層が全体の 63.8% を占める。一方、女性（9,689 人）の平均年齢は 51.5 歳、平均勤続年数は 8.5 年、平均賃金額は 121,335 円である（女性の 60 歳以上層は 29.0%）。

なお、集計対象組合の業種区分では、製造業が 1,240 人、交通・運輸業が 335 人、商業・サービス業が 11,352 人となっており、商業・サービス業が 9 割近くに及んでいる。

集計対象の大部分を占める商業・サービス業（男性：1,789 人、女性：9,563 人）に限定し、賃金階級別に人員分布をみると、男女ともに 10 万円を下回る層（男性の 3 割強、女性の 5 割弱）の多さが目立っている（補論-1 図）。また、10 万円を上回る層では、男性では 15 万円台、女性では 14 万円台がいずれも最も多くなっている。実際の詳しい勤務実態（勤務日数や勤務時間など）、さらには配偶者の有無等が不明のため推測の域を出ないが、女性の多くは収入を一定の金額以下に抑えられるよう勤務日数や時間などの就業調整を行っていることも想定されており、対象者の属性把握も含めたデータ収集、整理が不可欠となっている。

補論-1 表は、商業・サービス業について、年齢別、勤続年数別に平均賃金額をみたものである。

補論-1 図 賃金階級別人員分布：商業・サービス業（タテ軸：万円、ヨコ軸：人数）

